

平成21年度墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会
第1回「乳幼児期」「児童・青年期」分科会議事要旨

日 時： 平成21年6月29日（月） 午後2時00分～4時00分

場 所： 「乳幼児期分科会」81会議室（区役所庁舎8階）

「児童・青年期分科会」82会議室（区役所庁舎8階）

- 議事内容：
- 1 全体会…会長あいさつ、資料・進行の説明
 - 2 各分科会に別れて討議
 - 3 全体会…各分科会の報告
 - 4 その他 分科会の次回開催日予定、事務連絡

【配布資料】

資料1 墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会委員名簿

資料2 墨田区次世代育成支援行動計画策定のための調査報告書概要

資料3 第1回推進協議会で出された意見、アンケート集計、人口推計

第1回墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会 分科会委員名簿

氏 名	所 属	乳幼児期 分科会	児童・青年期 分科会
◎布施 英雄	共愛館理事長	*	*
○澁谷 昌史	関東学院大学准教授	*	*
☆野原 健治	興望館館長		*
☆長田 朋久	横川さくら保育園長	*	
増田 理枝子	増田小児科医院長	*	
中澤 進	すみだ幼稚園長	*	
服部 栄	雲柱社理事長		*
大串 紀代子	両国子育てひろば施設長	*	
鈴木 和美	主任児童委員	*	
山下 洋史	男女共同参画推進会議委員長	*	
小野内 文江	小学校連合PTA会長		*
田村 亨	中学校PTA連合会		*
須貝 利喜夫	青少年委員		*
田口 武司	文花中地区青少年育成委員会		*
野城 東亜子	墨田区少年団体連合会		*
小菅 崇行	小菅株式会社代表取締役社長		*
西村 孝幸	小梅保育園代表	*	
田口 典子	公募委員	*	
小平 多津子	公募委員		*
上野 悦子	公募委員	*	
荒木 尚子	緑幼稚園長	*	
伊藤 隆雄	緑小学校長		*
松本 憲一	墨田中学校長		*
鈴木 陽子	子育て支援担当部長		
細川 保夫	福祉保健部長		
坂本 康治	教育委員会事務局次長		
麻場 富喜子	江東橋保育園長	*	

◎推進協議会長 ○推進協議副会長 ☆分科会長
*担当分科会

事務局

子育て計画課長 岩佐一郎
 児童・保育課長 関口芳正
 子育て支援総合センター館長 今泉峰子
 子育て計画課 染谷、有澤、佐藤

1 全体会…会長あいさつ、資料・進行の説明

(会 長) 第 1 回分科会の全体会を開催します。墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会は、1 年をかけて計画策定にあたりますが、2 つの分科会を設置し、課題を細かく検討します。生まれる前を含む就学前までの「乳幼児期」、小学校から青年までの「児童・青年期」の 2 つです。なお、分科会は 3 回を予定していますが、そのほかに特定の課題については随時ワークショップを開くなどして、専門家の助言などを聞きながら細かく検討したいと思います。1 年間、墨田区の次世代育成のために全力を尽くしていただきますようお願いいたします。本日は、あらかじめ全体の課題を説明してから 2 つの分科会に別れ、またその後全体で各分科会の報告をしあい、今後の進め方を話し合います。初めに、子育て支援担当部長より、ご挨拶をお願いいたします。

(子育て支援担当部長)

保育園の待機児問題は課題となっていますが、行政としては、家庭で子育てをしている人にも支援を差し伸べるなど、色々な子育て状況の人に対応するにはいけません。区の財政状況は今後厳しくなっていくと思いますが、その中で多様なニーズにどう対応していくかが課題です。また、団塊世代が、引退後に社会貢献したいというニーズがあります。手を差し伸べたい人と借りたい人を結び付けていくことも考えなくてはなりません。その辺りをお含みいただき、活発な議論をお願いいたします。

(事務局) では事務局より、お手元の資料の確認と説明をします。

—資料説明—

(会 長) 質問はありますか。

(委 員) 33,000 人という子どもの数の目標は達成されそうな予測ですが、後期計画も同じ目標でいくのですか。それともまた違う目標を立てるのですか。

(会 長) 平成 16 年からの 10 年間で 3,000 人増やすという目標でしたが、それが達成されそうであれば、改めて目標を掲げる必要はないと思います。

(委 員) 墨田区内で増えたのではなく、流入で増えたのでも良いのですか。

(会 長) 墨田区内で増やすにはどうしたら良いのかということは、検討しなければいけない部分ではありますが、後期計画は数字を大きく掲げて目標にする段階ではなく、施策の中身を緻密に組み立てていくべきだと思います。

(委 員) 1 年かけて策定する中で、目標人数の見直しの検討もあるということは残しておいたほうが良いのではないのでしょうか。

(会 長) 検討の段階ではありますが、それを目標として掲げるかどうかは考えたほうが良いと思います。ほかに目標とすることがたくさんありますので、そちらに重点を移し、その目標が達成できれば数字も達成されるだろうという考え方でいきたいと思います。

(委 員) 入ってきた人が出ていかず、増やしてくださると良いと思います。

(会 長) そのための基本的な施策が問われているのです。

(委 員) この人口推計はあくまで推測ですので、私たちはあまり数字にとらわれず、この数字に近づけるような後期計画をつくるということを課題にしたほうが良いと思います。

(会 長) 墨田区にはガバナンスの取り組み、つまり行政を区と住民との協力の中で行おうという取り組みがあります。また、墨田区の基本構想でも我々と共通の課題が掲げられています。そうした区全体の動きをよく見通した上で進める必要があるということを感じておいてください。では、分科会に分かれてください。

2 各分科会に別れて討議

(1) 乳幼児期分科会

(分科会長) 乳幼児期分科会を開会します。分科会長に任命されましたので、責任をまっとうできるよう努めたいと思います。前期計画に関わっていない委員も多いので、目先の変わったアイデアなども後期計画では出せていければと思います。分科会長補佐からご挨拶をお願いします。

(委 員) 前期計画の反省点は、サービスの量とPRが不足しているということです。新たなサービスを考えるということよりも、どうすればうまく使いこなせるのかを考えていきたいと思います。

(分科会長) 次に分科会の予定を確認します。7月に2回、8月に1回の分科会の後、9月には中間のまとめという計画です。中間のまとめまでに議論が深まらないようであれば、それ以外にも集まりたいと思いますので、ご了承をお願いします。では初めに、各自の自己紹介を兼ねて、事前に皆さんに回答していただいたアンケートの内容をご説明願います。

(委 員) 主任児童委員です。民生児童委員の中で11歳から18歳を担当し、家庭と学校、家庭と地域のパイプ役や、それぞれの連携のパイプ役をしています。具体的には、虐待家庭の見守りや行政へつなぐ役目、施設から帰った児童の見守りなどを行っています。2歳児の幼稚園教諭もしています。前期計画は区民へのアプローチが難しかったので、後期計画ではうまく伝えられたら良いと思います。また、妊娠中からの親の心構えやサービスの認知を充実し、母親のメンタル面をフォローできれば良いと思います。

(委 員) 公募委員です。子育てとまちづくりの会をつくり、区内に授乳とオムツ替えができる場所のマップづくりに取り組んでいます。今後公共施設だけでなく、保育園・小児科・産婦人科などでも気軽にオムツ替えなどで立ち寄り、相談ができるように、協力をお願いするという計画があります。前期計画は、PR不足を感じました。情報を自分から取りに行こうとしない人へのPRの仕方を考えたら良いと思います。後期計画で提案したいことは、一時保育を利用して自分が休むことを恥ずかしいと考える人が多いので、リフレッシュしても良いことを伝えたい、区内の事業者を巻き込み商品券の発行をするなどしてPRと利用促進を図れないかということ、近所の先輩お母さんとの交流ができるような仕組みづくり、外国人の子どもや母親のフォローなどでできればと思っています。

(委 員) 公募委員です。私は自分の実家で4世代で暮らしていて、恵まれた環境でした。だからこそ、そうでない方との差を感じます。また、私の家庭では介護が差し迫った問題で、いつ恵まれた環境から大変な環境へ変わるかわからないという不安があります。前期計画は、知らない事業が多かったです。以前、子育て支援総合センターに、幼稚園についての問い合わせをした際、情報が少なく困りました。後期計画では子育て支

援総合センターの活用についてと、ファミリーサポートセンターは講習を受けるに当たり日程が合わない理由で利用しづらいので、その辺りについて考えていきたいと思ひます。

(委員) 認証保育所を運営しています。希望者が増えたためにお断りしたお子さんも多く、その後のフォローが心配です。また、要保護児童協議会にも参加していますが、その場でもフォローがきいていないお子さんがかなりいます。そのような子育てについてのシリアスな面も議論していきたいです。前期計画はPR不足もありますが、事業の数と満足度がリンクしていないと思ひます。ガバナンスの視点からそれぞれの点を結び付けることで、墨田区らしい計画ができるのではないかとと思ひます。

(委員) 公立保育園の園長です。待機児童対策は焼け石に水で、子育て相談と言いながら「どうやったら入れますか」という相談が、去年は60件以上ありました。また、発達障害のお子さんが増えていることが気になります。乳幼児のうちに自己肯定感が育つような対策が求められてきています。また、ここでは色々な視点からのご意見をうかがうことができるので、公立保育園も意識改革をしていかなくてはいけないと思ひます。

(委員) 公立幼稚園の園長です。待機児童の問題とあわせて、認定こども園の計画が進んだ際には、いつでも対応できるようにしています。また、入園前の支援である巡回相談員は、今のところはロコミなどでキャパシティにあった人数で進んでいます。公立幼稚園の案内は公的機関でパンフレットを手に入れられますが、まだPR不足だと思ひています。去年、公立と私立両方の幼稚園が載った案内ができたので、これも続いていくのではないかとと思ひます。子育て支援総合センターには点を結び拠点となつてほしいと思ひますが、ネットワークがまだできていないと感じます。それから、公立と私立の幼稚園の連携がなかなか進まないことが課題だと感じています。

(委員) 小児科医です。3歳児健診を担当していますが、発達障害児が増えていると感じます。健診前でも親が発達障害のサインに気づいた時に、気軽に相談できるシステムがあると良いと思ひます。また、発見後にどう支援につながっているのかがわからないので、医療が保育園や幼稚園と連携できるようなシステムがあると良いと思ひます。それから、子どもが病気の時にも安心して預けられる保育制度や、保育園での投薬などと医療行為の線引きについて考えていきたいと思ひます。

(分科会長) ひとつおりの自己紹介が終わりましたが、補足はありますか。

(委員) 先ほどの幼稚園の情報のお話ですが、子育てひろばは私立幼稚園の情報がなく、橋渡しができないので、ロコミが得られるような支援は考えています。でも、自分で確かめてもらうのが一番良い方法です。

(分科会長) ありがとうございます。今日皆さんに聞いた課題意識以外にも、計画は多岐に渡つているので、計画全般に目を通しておいてください。次に、計画策定のための調査結果の概要を簡単に説明していただきます。

(事務局) 墨田区次世代育成支援行動計画策定のための調査報告書の概要の説明をします。

—資料説明—

- (分科会長) ありがとうございます。私は、少子化対策が重要な課題だと思っていますが、本来は、墨田区で育った子どもが産み育てることが理想だと思います。機会があれば江戸川区の人気と比較検討などしてみたいと思います。
- (委員) 最近高校生と話す機会がありましたが、墨田区の子どもは墨田区が大好きです。でも、墨田区が好きなのと、産むかどうかは別の問題であり、墨田区が好きな人たちが子どもを産みたくなる施策が必要だと思います。
- (分科会長) そうですね。そのための知恵を皆さんからいただけたら良いと思います。お金をかけた施策でなくても、そのような雰囲気づくりができるような具体案をお願いするかもしれません。
- (委員) 幼稚園の立場から見ると、中学生の職場体験を通して、将来の親を育成できるのではないかと思います。
- (分科会長) 文科省の方針ですね。
- (委員) はい。それを積極的に受け入れていきたいです。
- (委員) 中高生のカリキュラムに、赤ちゃんとの交流を入れるべきだと思います。そのような経験をした人としらない人では、意識が違うのではないかと思います。
- (委員) 学校教育だと、行政が縦割りなので難しいのではないのでしょうか。区のイベントなどで、中高生にボランティアをしてもらったらどうでしょうか。
- (委員) 中高生のボランティアを集めるのは難しいです。
- (委員) 中学生にボランティアをお願いすることがありますが、手伝いに来たというより、何かをしてもらうつもりで来ていることがあります。その意識を変えるのは難しいと思います。
- (委員) 受験前の中学生が幼稚園の子どもと交流するという取り組みがありますが、精神的な面で非常に良いようです。このような幼・小・中の連携を意識した取り組みをすると面白いのではないのでしょうか。
- (分科会長) ボランティアについては、まだ日本では根付いていないので、醸成するには長い時間が必要だと思います。また、ボランティアで子どもの良さを実感すると、将来結婚して子どもを持つのは別の話です。子どもを持つことの負のイメージばかりが押し出されている現代社会の雰囲気を変えないと、家庭を持つイメージが湧いてこないのではないのでしょうか。このことは大きなテーマです。
- (分科会長) では、全体会に戻ります。

(2) 児童・青少年期分科会

(分科会長) 児童・青年期分科会を始めます。児童・青年期分科会の流れと運営、また、乳幼児分科会とどう連動させていくかを話し合いたいと思います。その前に1つ、事務局についてお願いがあります。策定にあたり膨大な作業を効率化するために、事業者にも入っていただき、今まで5年間の流れや推進協議会や企画委員会での話し合い、新しく意見の出た事項をとりまとめてもらう形式をとることをご了解ください。ではまず、配布資料を読まれた感想をお話いただき、その後、この会で何を話し合っていくかを、重点項目にしばってお話してください。

(委員) 資料には、自分の関心ごとから抜けている部分がきちんと入っていて、大事なところを確認することができました。全体的なことだけではなく、細かな部分も網羅されていて、これが機能していけば良いと思いました。具体的には、学童クラブについてのアンケート調査の結果を見ると、待機児童もあり、まだニーズはあります。設置場所について、学校の空き教室を使ってほしいという意見が多いのですが、長い時間を学校だけで過ごすということを考えると、果たしてどうなのでしょう。

(委員) 課題は、PRの浸透不足についてです。資料に書いてあるような方法では今までと変わりません。もっと違った方法を考えていかなければなりません。10月のすみだまつりに、この会で1つのテントをもらい、PRをしてはいかがでしょうか。前回の推進協議会でも浸透していないということが1番の課題に挙がっています。

(委員) これからは実際に行動に移していかなければなりません。周知ということで、先ほどのすみだまつりの案に似たようなことはできないでしょうか。それと、児童・青年期分科会で、すでに始まっている「いきいきスクール」の視察を行い、情報や区・我々に対する要望を拾い集めるなど、直接的な活動をしたいと思います。

(事務局) 子育て総合支援センターは、前期に盛り込まれていた内容を後期計画で本格的に実施充実を図っていくこととなります。児童・青年期分科会は、大人になっていく筋道につながるところに重要性があります。そして墨田の区民・大人として育っていくための支援が計画の重要な柱になると思います。墨田らしさ、下町文化には町会などのつながりを中心とした地域コミュニティがあります。今の子ども達はコミュニケーションをとることが苦手で、転居してくる人達も地域とのコミュニケーションを結ぶことは苦手です。子ども達が大人になった時、周りの人と充分つながりをもてるような人間となれるように、墨田区の地域コミュニティを活用し、更にはそれを継承していく大人に育てていくということが、支援計画の中では大事な視点だと感じます。

(事務局) 墨田区の児童館は全国に誇れる素晴らしいものだと思っています。問題はPR不足にほかなりません。現在、学校の中に学童クラブをつくってほしいという保護者の意見が多いです。学校が子どもにとって安心・安全な居場所であるという考えからだと思いますが、子どもの健全育成の観点から見て、長時間同じ人間関係の中にいるよりも、学校から離れた社会関係の中で混じることが良いということで、児童館を中心に学童クラブを展開してきた歴史があります。しかし学童クラブを学校の中へ、という社会の風潮はどうなのでしょう。皆さんにぜひ、議論をしていただければと思います。これに関して、墨田区教育委員会では、学校の中に児童館的な自由な遊び場をつくるということで、「いきいきスクール」を始めています。これも学童クラブです。今後、

どういった方向へもっていけば良いのか、という点も議論していただきたいと思いません。意見の中にある、4年生以上の居場所づくりに関しても、子どもの健全育成にとって良いことなのかどうか、協議してほしいと思っています。

(委員) 東京商工会議所から出向してきています。この策定には5年前から関わってきています。企業側の課題は、「就労環境」と「子どもへの支援」の2つです。就労環境については、個々の企業環境には、我々が立ち入れない部分があり難しい問題です。子ども達への支援については、企業訪問や公開をしている企業があります。今年の6月より教育支援ネットワークへの登録が始まっており、現在、25~26社です。100社ほどの登録に達して、具体的に何かできれば面白いと思っています。登録の際にアンケートを実施しており、「何ができますか?」という質問には色々上がってきているので、皆さんと協議していく中で具体的な形ができると良いと思います。

(委員) 学童クラブは児童館から廃止され学校内へ、というプランが進んでいます。子どもは学校だけでは育ちません。地域の中で楽しく育っていくものだというのが私の持論です。世の中の流れは安心・安全が独走しています。これでは子どもの危機管理能力もダメになってしまいます。こういうことを議論してほしいです。

(委員) 推進協議会長からお話のあったガバナンスということが、次世代育成のテーマだと思います。地域としてもっと頑張らなくてはいけないこと、地域としてできるかぎり支援しますよと宣言できなければいけません。後期計画は、委員の意見が反映された重点事項・新規事業を打ち出していきたいと思っています。墨田区には身近に感じられる中小企業・会社がたくさんあります。それは財産です。事業所アンケートでも応援したいという数字がでています。それに働きかけていくことができないかと思っています。私自身も小学生対象に何かできないかと考えています。

(事務局) 墨田区の色々な主体と行政と一緒に手を組んで盛り上がっていきける、特徴的な計画づくりをしていただきたいです。政策というよりは、例えば、PRするにはどのように盛り上げて、伝えていくためには何をして、何を協力していけばできるのかという視点で意見をいただけたらと思います。

(分科会長) 皆さん同じベースの中で、それぞれの視点でお話し下さり、今後はどのような流れで進めていくかを話していきたいと思っています。区が用意して下さった2回の分科会以外に、3回ほど自主的に集まっていただく分科会を希望します。中身は、例えば、学童のあり方を徹底的に話し合う。子育て支援総合センター、子育てひろばの今後の展開について。中高生にどう墨田の良さを伝えていけばよいか。これから大人になっていく子どもたちが本当は何をどう考えているかなどを洗い出していきたいと思っています。

(委員) 転居ではなく、墨田区自前の子どもが増えるためには、中高生が健全に育っていくことが大切です。そのためには、やはり企業の職場環境の充実と、中高生が墨田の企業に目を向けることが必要なのではないでしょうか。環境整備という視点からは、児童館など、建物の中で子どもを育てるのではなく、自分達の発想で自由に遊べ、育っていく場所がほしいです。わんぱく天国、親水公園、河川敷などでは、実際にいきいきした子どもの姿がうかがえます。隅田公園をプレイパークにということは無理かもしれませんが、大きな新しい発想を実現化していけたら良いと思います。

- (委員) 自主的に集まることには賛成ですが、少ない人数での決定にならないよう、分科会の全体会へ必ず戻してください。自主的な分科会での話し合いが、児童・青年期分科会の決定事項であると暴走しないようお願いいたします。やっていきたいことは、まつりの中へブースを設ける、墨田教育支援ネットワークの勉強、いきいきスクールへの視察、ゲストティーチャーなどです。
- (委員) 区立と私立の学童の違いや、少年団・NPO などでの子ども達の放課後の過ごし方や、キャパシティについて、利用者としてはわかりづらく、ばらばら感があります。これらの情報発信をしてほしいと思います。
- (分科会長) ばらばらで利用しにくいものはつなげていきたいと思います。連携しているものをつなげていくことが、2つの分科会のテーマでもあります。児童館にある子育てひろばも連携をとり、質の向上を目指していければと思います。また、要保護児童救済のためには、運営協議会を設置し、子育て支援総合センターと民生委員とのネットワークづくりをバックアップしていく仕組みについて話し合わなければなりません。
- (委員) 乳幼児向けの子育てマップがありますが、青少年向けの子育てマップもあると良いと思います。
- (委員) ハンドブックのようなものでも良いのではないのでしょうか。
- (委員) 年齢を考えると、子ども達が自分自身で読むことができ、活用できるもの、興味がわくようなものにしてはいかがでしょうか。
- (委員) 学童について、区立であろうが民間であろうが同じサービスが受けられるよう、学童のサービスを明確化していきたいです。
- (分科会長) 学童というなら、サービスの最低基準のようなものをつくらなくてはなりません。もう1つ難しい問題として、学校選択制の問題がありますが、とらわれなくて進めていきたいと思っています。また、学校と福祉・保健もつなげていかななくてはなりません。まだ溝は深いようです。就学前教育について、保育園と幼稚園を一体化しようということがもう始まっています。
- (委員) 毎年、色々な制度が変化しています。保育園と幼稚園の一体化、企業の教育支援ネットワークなど、情報を得ようとしている人には伝わりますが、そうでない人には、いつのまにかルールが変わっていってしまうだけです。我々も新しいことを勉強し、それをイン・アウトしていくことが、この児童・青年期分科会のポイントなのだと感じます。時間もありませんので、自主的な分科会の日程などを教えていただけませんか。
- (分科会長) 日程はまだ決まっていますが、7・8・9・10・11月の中にそれぞれ1回ずつ入れたいと思います。地域、住民、委員の側から重点項目を報告書に盛り込むという姿勢でいきたいと思っています。それを意識して勉強し、言いっ放しにならないようにまとめていただきたいと思っています。地道な話し合いを重ね、進めていきます。

3 全体会…各分科会の報告

- (会長) 今日は皆さんからのご批判、ご希望、ご指摘をいただきました。これを今後詰めていきます。では、各分科会の報告を、乳幼児期分科会長からお願いします。
- (分科会長) 初めての分科会でしたので、自己紹介を兼ねて、一人ずつ前期計画の感想・反省・評価を含めてのご意見をいただきました。今後整理していき、皆さんの意見を含んだ計

画にしていきたいと思います。また、今までの取り組みをもとに、さらなる知恵やアイデアを後期計画にどう組み込めるかという視点、少子化の視点を確認し、今後の議論につなげていきたいという話をしました。

(会 長) 次に、学童・青年期分科会長からお願いします。

(分科会長) 計画策定は容易なものではありませんが、配布資料の中にある皆さんの意見は、大変意気込みの感じられるものでした。分科会ではさっそく、皆さんの関心ごとをうかがいました。学童・青年期分科会も、3回の自主的な集まりをしようと思いますが、事務局とも話し合いながら、話題はよく選定していこうと思います。話題については、参加者の中にふさわしい方がいればその方にレポートしていただき、必要であれば関係者の方に来ていただくということも含め、分科会の運営についての確認をしました。内容については、つながりという観点や、ばらばらな学童のプログラムをならしていかなければならないということ、子育てハンドブックには学齢期のことがあまりないということ、PR 不足の問題、いきいきスクールを見学したいなど様々でした。この中から、3回の分科会の中で1回につき1~2 テーマを話し合いたいと思います。知る、つなぐ、参加の3つが大きなテーマです。

(会 長) 次に、副会長に今回の感想をうかがいます。

(副会長) 児童・青年期の分科会に参加しました。両分科会に共通するものと思われませんが、墨田区で子どもがどう育っていくかということのを改めて考えないといけないと思いました。子どもが、子どもらしく、子ども時代をきちんと過ごすことが重要で、そのような場所が必要ではないかと思います。今の20歳前後の人は元気がなく、自ら動くことが苦手な人が多いです。このように育った人たちをどうしたら良いのかと考えた時に、仕掛けとして、人間関係のつながりをつくっていくことの大事さが確認されました。墨田区の持っている人間関係を今の子どもたちにも伝えていければ良いと思います。サービスはたくさんできているので、これらをつないでいくことが大事だと思います。例えば保育所などを発達障害の専門家が巡回し、ケース会議のようなことをするという試みをしている自治体があります。コーディネーターのような人が間に入ることによって、家庭と保育所がつながります。ほかに、子育てひろばを学校の中に置いたところもあり、小さな子どもが側にいることで、突っ張っていた子どもが自分を見直しはじめたという報告があります。私たちも、他自治体を参考にし、様々な資源を結び付け、人と人との出会いをつくっていくことを検討しても良いと思いました。

4 その他 分科会の次回開催日予定、事務連絡

(事務局) 本日は同時刻に2つの分科会を開き、資料の説明と、2つの分科会の内容のすり合わせのために、最初と最後に全体会を設けました。次回は、7月23日2時~4時、場所は興望館です。進め方等についてご意見がありましたら、事務局へお願いします。

(会 長) 教育委員会等どなたかお招する予定や、関係資料が必要な際には、あらかじめ事務局に要請してください。口頭だけで議論するのではなく、データを踏まえて協議を進めたらよろしいかと思います。では閉会します。